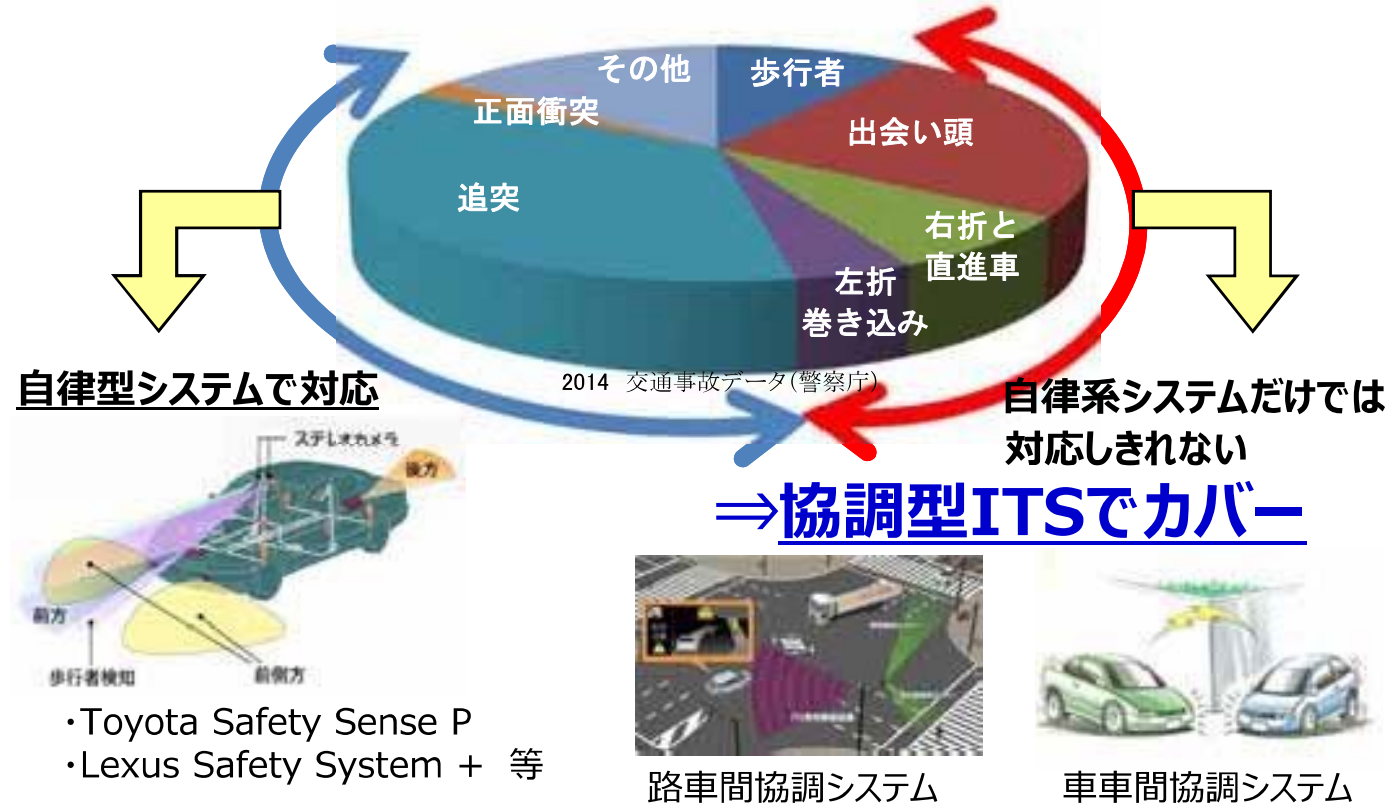


協調型安全運転支援システム「ITS Connect」の普及に向けた取組み状況

1. 事故類型分析と対応システム



3. 車載機の普及状況

・2016年8月現在、以下の3車種がITS Connectに対応
・対応車種は今後順次増やしていく



ITS Connect搭載販売台数：約4万6千台 (2016年8月末現在)

～お客様の声～

- ・右折の時に対向車に気が付かず、ヒヤッとしたことが何度もある。**右折時注意喚起は便利そう。**(30代女性)
- ・**C-ACCは、試乗すると商品力の良さが分かりやすい。**ドライバーの感覚に近いので、ゴルフ帰りの疲れた時は使いたい。(販売店)
- ・**2.7万円は意外と安いね。**他の安全装備のように10万円程度だと思った。**この価格で安心が得られるなら、装備したい。**(60代男性)
- ・**住んでいる地域にもインフラが欲しい。**他社の車両ともつながりたい。(40代男性)

2. 協調型ITS実用化済みシステム ('16年8月現在)

路車間通信システム



車車間通信システム



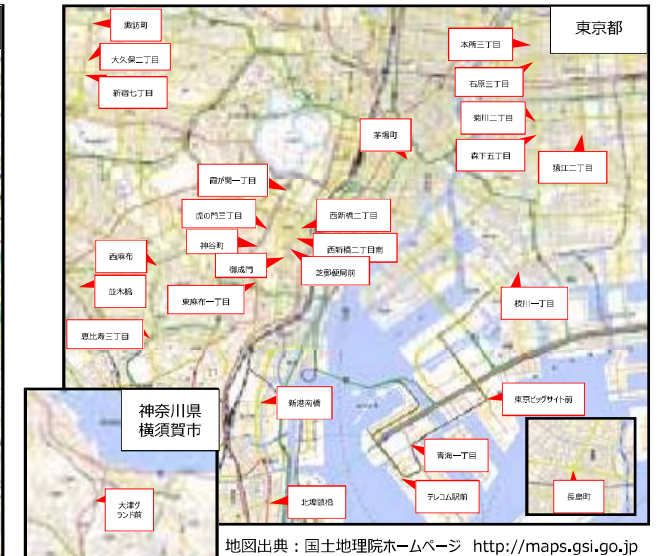
協調型ITSは普及してこそ効果が出るシステム

4. インフラの普及状況

愛知県のインフラ



他都県のインフラ



※詳細は <http://toyota.jp/technology/safety/itsconnect/>

国内合計 52箇所

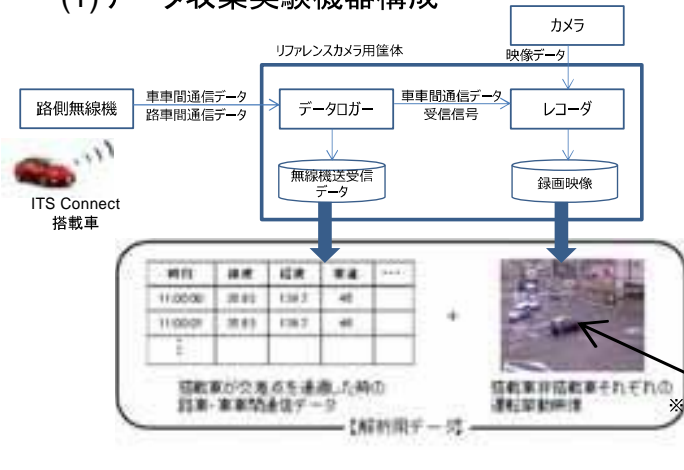
- 名古屋市内等 18箇所〔官民 (UTMS協会) :16 ・国(内閣府) :1 ・県 :1〕
- 豊田市内 6箇所〔官民 (UTMS協会) : 6〕
- 東京都内 27箇所〔官民 (UTMS協会) :25 ・国(内閣府) :2〕
- 神奈川県内 1箇所〔国(内閣府) :1〕

協調型安全運転支援システム「ITS Connect」の普及に向けた取り組み状況

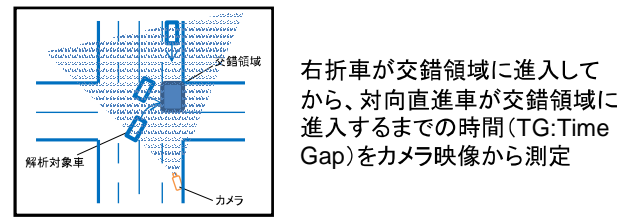
5. 効果評価の実施状況

1) 評価方法

(1) データ収集実験機器構成



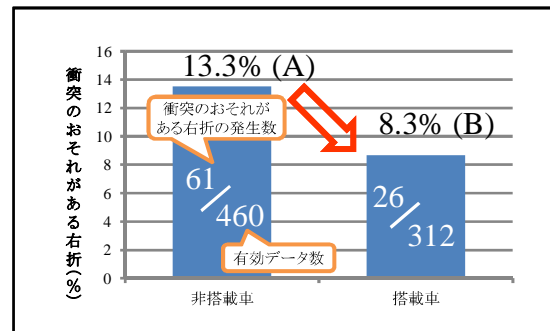
(2) データ解析方法



＜右折時ヒヤリハットの定義＞
「TGが4秒未満の場合」もしくは
「交錯領域進入後に右折車が対向直進車が明らかな回避行動（加減速、操舵）をとった場合」

＜発生率を搭載車・非搭載車で比較＞
非搭載車の映像は、交通環境を統一するため搭載車と同一、および次の信号サイクルを観測する

2) 解析結果 2016年4月～7月のデータ解析結果（非搭載車:460台、搭載車:312台）



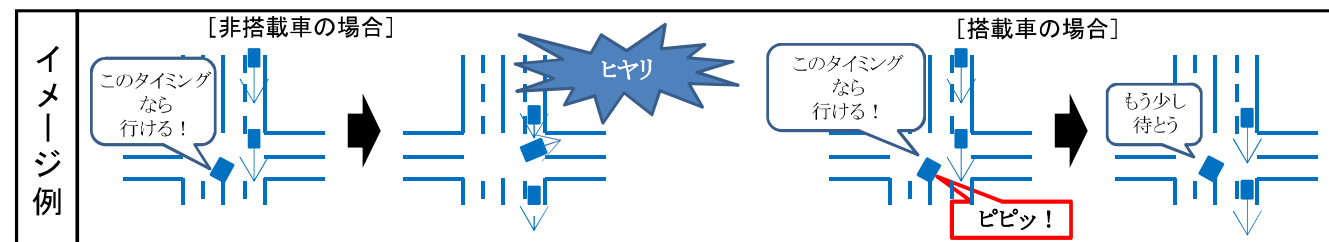
	全体	層別解析			
		対向右折車の有無	右折開始位置		
		① 有り	② 無し	③ 先頭から	④ 2or3台目から追従
非搭載車					
有効データ数	460	236	224	296	164
ヒヤリハット発生数	61	23	38	38	23
ヒヤリハット発生率	13.3%	9.7%	17.0%	12.8%	14.0%
搭載車					
有効データ数	312	175	137	239	73
ヒヤリハット発生数	26	16	10	23	3
ヒヤリハット発生率	8.3%	9.1%	7.3%	9.6%	4.1%
効果	37%	6%	57%	25%	71%
χ ² 検定	5%有意	*	1%有意	*	5%有意

*: 統計上の明確な有意差ありと言えない

＜層別解析にて効果が大きくなった理由の考察＞

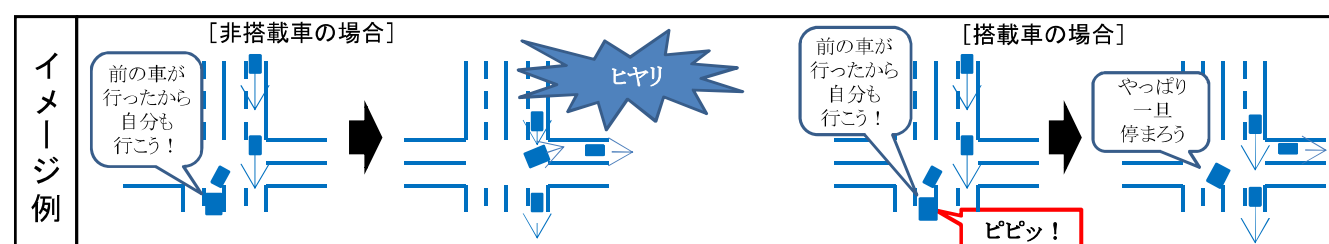
【②対向右折車無し】の場合

●搭載車では、たとえ目視で「行ける」と思えるような場合でも、注意喚起によって踏みとどまると想定される。



【④2台目or3台目から追従右折】の場合

●搭載車では、右折待機帯先頭に進むまでに注意喚起が鳴ることで、2台目or3台目から追従右折する割合が抑えられると想定される。



6. インフラの普及に向けて

1) 愛知県庁公開日における県民試乗会

(1) 目的

・「県庁公開日」に合わせ、安全運転支援システムの体験試乗会を行い、県民の理解促進を図る

(2) 一般県民試乗会

・実施予定日: 11月3日(文化の日)

(昨年の実施状況)



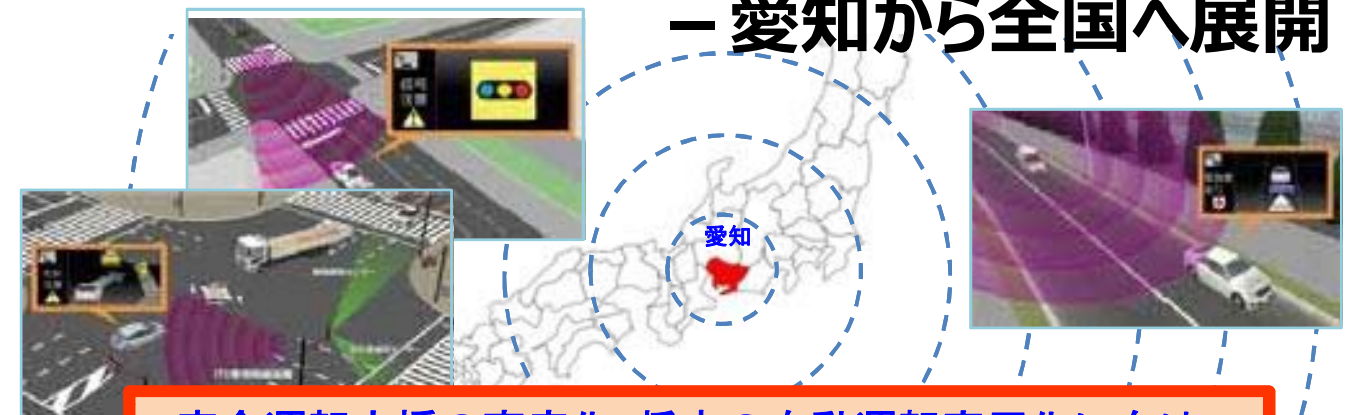
2) 国のインフラ整備・事業化に関する動向

- ① 国家公安委員長(河野太郎)へ 民進党ITS議連が提言(5/19)
: 「第10次交通安全基本計画を受けたITS技術活用の提言」
- ② 国家公安委員長(河野太郎)が ITS Connect ご試乗(5/24)
- ③ 警察庁/各都道府県警諸会議に合わせた関係者試乗会
- 「全国施設整備担当者会議」(4/18)、「交通部長会議」(6/29)
「交通管士官会議」(7/5)



7. 交通事故死者数削減に向けて

— 愛知から全国へ展開



安全運転支援の高度化・将来の自動運転実用化に向け、
クルマ・人・社会をつなぐ社会インフラの整備が急務。
「愛知から全国へ発信、普及促進の加速を！」